

ゼミナール異変

平瀬巳之吉ゼミナール

近ごろ気になることがある、といえは、まるでテレビのCMの文句のように聞こえようが、授業をしていて感じる事だ。テキストをもたないで教室にあらわれる学生の数が以前より倍増した。全般的な物価騰貴による生活費膨張で、とてもそこまで手がまわりかねるせいなのだろう。講義ならノートで解決できるからそれでもいいが、ゼミナールではそれもゆくまい。各人がテーマをもって勉強するのだから。なにしろ1冊で5千円台という日本語の本が出る世の中だから、専攻テーマにかんして数冊も買い整えねばならんということにでもなれば、それこそ生活の脅威だ。それも共通テーマ制の場合なら、たとえ高価でも1冊だけ買い入れ、必要部数を複写して、全費用を共同分担することも可能だから、割に安上がりだが、わがゼミは昔から自由テーマ制で、またそれを好んで選択してくる学生が大部分だから、そんな乗合バス式にいかない。そこで学生にしてみれば、勢い生活の知恵上、入門書（これは大量部数印刷するから定価は安い）を使うことになりやすい。が、これでは本当の勉強にはなりかねる。社会情勢上、ゼミのあり方を変えなければならぬのだろうか。先輩諸君、良い知恵を貸してください。

